

## 平成 30 年度 事業計画 多機能型事業所

### (1) 開所について

開所日数 266日 (特別開所 27日)

特別開所(土曜日)は、事業別に利用者のニーズに沿った形で進めていく。

- ・就労継続支援B型においては、就労に繋がる余暇支援、運動支援は利用者の要望も高いため、積極的な継続をしていく。
- ・生活介護では、利用者の意向に沿い活動内容を検討、進めていく。

### (2) 利用者の状況(平成 30 年 4 月 1 日現在)

就労継続支援B型 定員 20 名 現員 21 名

利用者	女性	男性	全体
人数	11 名	10 名	21 名
平均年齢	32.5 歳	46.3 歳	39.0 歳

- ・工房では、現在の施設環境では、新規利用者の受け入れは難しい。
- ・喫茶では、人員配置を検討の上、増員を進めていく。

生活介護 定員 10 名 現員 9 名

利用者	女性	男性	全体
人数	5 名	4 名	9 名
平均年齢	40.6 歳	41.2 歳	40.8 歳

- ・新規利用者の受け入れは、活動スペースを考慮すれば2名ほどは可能。  
見学、実習など、積極的に取り組む。
- 但し、車椅子利用の方の受け入れは設備的に困難である。

### (3) 利用者への支援

利用者の意向に沿った支援の充実を目指す。

- ・個別支援計画において、利用者の意向を最大限反映させる。  
本人との相談、モニタリングで、意向を聞き取る。日々の活動の中でも意見を拾っていく。
- ・事業別に、支援計画策定会議にて計画を検討、定期的に見直しの為、会議を行う。
- ・生活介護事業においては、活動を通して、内容、支援の適正を、検討、見直しを図っていく。

### 作業について

#### 就労継続支援B型

目標工賃 15,000 円 (昨年実績 13,334 円)

- ・工賃アップに向け、現在の状況を維持、継続する部分と取り組みを見直し改善する部分を明確にしていく。(収益での見直しを行う。)
- ・工賃向上専任担当者を配置し、工賃アップのための対策など定期的な検討会議を実施する

## 下請け作業

- ・現在の協力事業所からの請負を継続。資材調達、作業効率を考え、現在の受注状況が最大、これ以上のアップは難しい。今後の工賃アップの為、作業種、内容及び単価の見直しを実施協力事業所に単価アップの交渉を進めていく。
- ・施設外作業により、屋内での人員が手薄になることを想定、計画的な対応が必要。作業スケジュールに沿った計画的受注ができるように、協力事業所と調整する。

## 施設外作業

- ・除草作業を事業として取り組み、昨年実績の上乗せとして工賃アップを目指す。年間通して請負を計画、更に繁忙期である夏場への対応を検討していく。
- ・除草作業の告知、ポスターによる訴求、チラシなどを配布する。関係先などへのお願いも行う。
- ・資源回収への取り組みを継続（ヒバリヤ・エコプラザ）
- ・出張販売（焼津市役所、藤枝特別支援学校焼津分校）  
障害者優先調達推進法による焼津市からの物品や業務を積極的に受注、請負の努力をしていく。

## 生活について

毎日の挨拶、当番活動への支援を継続、作業を通じ円滑な人間関係の確立、協調性を養う。各種行事を計画的に実施、社会経験を広げるよう努める。

## 就労支援

関係機関より就労先の情報などを収集、定期的に利用者とのモニタリングを行い情報提供、さらに就労先への見学、体験、実習などに繋げていく。

## 健康管理

歯科の検診、歯みがき指導、インフルエンザの予防接種の案内、指導。運動支援としての取り組みも行事や特別開所の中で検討していく。

## 生活介護

### 作業について

目標工賃 4,500 円（29年度 4,316 円）

作業を日課の中心として、活動するため、工賃についても分配より、利用者の状況に沿った評価基準を設けて支給をする。利用者に評価内容を説明、月度の反省や今後の取組を一緒に考えていく。

## 下請け作業

- ・現作業の受注量を増やして継続、その後、時間をかけて、より軽微な作業の確保、作業の進め方を見直していく。当面は慣れたシーラックの作業を継続していく。
- ・製品、資材搬出搬入なども作業と捉えて役割を明確にして継続、自分たちが関わった製品を

自分たちで完結させるという目的をもって、搬出搬入を変えていく。

#### 施設外作業

- ・草刈り作業、清掃作業において、可能な作業を分担していく。
- ・資源回収、家庭や協力事業所からの定期的な回収を継続する。

#### 生活について

##### 健康管理

- ・毎朝の健康観察・記録を継続する。
- ・嘱託医、看護師による健康確認、相談を継続する。

##### 運動支援

- ・日課として体操、ウォーキングを継続する。
- ・ボランティア講師によるヨガ教室、音楽教室を定期的実施する。

#### (4) 社会活動の推進と社会参加の機会拡充

- ・作業活動のノウハウを活用し、ヒバリヤ・エコプラザによる地域での資源回収等を推進。
- ・情報収集に努め、地域活動、行事への参加など、利用者の社会参加の機会を増やしていく。
- ・地域において、事業への理解を深めて頂くための様々な活動を検討、計画する。

#### (5) 職員体制

多機能型事業所（管理者）押尾 浩二（兼務）

##### 就労継続支援B型

サービス管理責任者 松野 雅己（兼務）

工房	常勤	非常勤
職業指導員	山本 衛	山田 多き江
生活支援員	成岡 史織	鈴木 和子

喫茶	常勤	非常勤
職業指導員	松野 雅己（兼務）	石原 ひとみ
		中野 正代
生活支援員		安田 みのり
調理員		賤機久子、萩原晃子

#### 生活介護

サービス管理責任者 押尾 浩二（兼務）

	常勤	非常勤
生活支援員	曾根 佳代	山本 美和子
	田中 久恵	
	押尾 浩二(兼務)	
嘱託医		竹内 俊明
看護師		前田 久代

## (6) 職員の育成

計画的な各会議、研修により支援力、専門性の向上を目指す。

- ・事例検討を通じた対応を会議スタイル問わず、随時行っていく。
- ・計画的な外部研修参加で専門知識、技術の取得を図る。専任担当者を配置する。

## (7) 施設整備（建設事業費）に備えた収益体制を目指す。

- ・国庫補助金による施設新築は財務状態を踏まえ、準備委員会にて検討を進めていく。
- ・現在の施設環境の課題や整備などは、施設準備委員会にて検討していく。
- ・各事業収支を明確にして、今後の運営計画を検証、検討していく。
- ・各事業収益に沿った人員体制、経費運用を図っていく。
- ・職員全員が、コスト意識を持てるように会計状況の共有化を継続して進めていく。

## (8) 就労支援について

作業活動を通して、技術や知識を高めていく中で、就労への意向を喚起する。

より良い工賃への意向がある利用者にも就労への気持ちを掘り出していく。

## (9) 防災について

防災マニュアル、防災用品の備蓄の見直しを進めていく。職員の意識を高め、訓練内容を検討、利用者の意識も高めていく。各事業、それぞれの状況に合わせて計画的に実施する。